

3期目の成果

- 「釣川環境保全や河川整備の重要性」
- 「子ども・若者を支える仕組み」
- 「経済対策について」
- 「ゼロカーボンシティを目指して」
- 「公共施設の有効活用について」
- 「ふるさと寄附を活用した共感人口の増加策」
- 「もしもの時に備え技術力の継承を」
- 「防災について」
- 「本市の行政経営全般について」
- 「子ども・若者が夢を持てるまちづくりを」
- 「代表質問」
- 「定住施策について」
- 「災害への備えを」
- 「農業の抱える課題について」

2020年～2024年

雨水管理まちづくり計画が策定され、事業予算化実現
 宗像市長選挙において高校生が投票受付の事務実現し、現在も高校生や大学生との協働が進行中
 置き配に関する協働事業の予算化実現
 市庁舎に太陽光パネル設置他、事業予算化実現
 屋内型子どもの遊戯施設(食事機能付き)の誘致公募が決定し、未利用時期のプールの活用も試行的に開始
 体験型返礼品の実現
 公共施設を包括管理するアセットマネジメント課が設置され、現在進化途中(市役所内の技術部門の集約は今後も訴えます)
 雨水排水の調整機能を保つために、ため池の余水吐スリットの設置を行うことが進行中
 政策を検証するために客観的な評価指標を活用するために、第3次総合計画の策定の中で指標(EBPM)を検討中
 子どもの居場所づくり活動支援のために公共施設の利用料や電気照明代の割引について協議中
 学校体育館の空調施設について推し進め、令和6年度内に設置予定
 定住施策の視点から空き家除却促進補助金の拡充のための予算化が実現

①1期2期と訴えてきた災害ボランティアを受け入れる仕組みづくりについて、社会福祉協議会、県内災害ボランティア団体、日赤看護大学と連携した訓練が実施
 ②万が一の時に素早く復旧復興ができるようにするために、法(条例)整備と財源の根拠づくりのための「安全安心まちづくり基金」として予算化実現、農家情報及び意識調査の把握のための地域計画の策定、新規就農者確保のための取り組みを調査研究、廃プラスチックに関する補助事業スタート

一議員として、一般質問等により
 貢献できたと思ふことをまことめ
 今後も多くのことが実現となるよう
 努力します。

財源の確保

「公共施設等維持更新基金」62億
 市庁舎含む公共施設の維持管理にしか使えなかった基金の「改善」を提案した結果、建て替えや改修工事にも充当できる基金に改善。
 公共施設を計画的に維持更新していく財源根拠を明確にすることができ、宗像市の公共施設の効率的な活用策や長寿命化の議路が進む。
 そもそも宗像市にはこんな課題がありました。
 ①企業誘致の責任の所在が曖昧だった。
 ②経済動向の調査分析体制が脆弱だった。
 ③税金以外に収入(財源)を増やす仕組みを持っていなかった。
 ④財政状況や市政課題を市民に分かりやすく伝える意識が足りなかったため、市の財政状況が厳しくなっていることや、経済を域内で循環、域内で消費することに関する市民理解が広がっていなかった。

「安全・安心まちづくり基金」30億

地島での土砂災害現場を視察した経験から本市における課題を明らかとしたうえで、災害時の対応への備え(財源根拠と法整備)が必要と指摘。
 災害だけではなく、大規模な感染症や経済情勢に起因する市民生活の危機に幅広く対応するために基金が創設決。
 私は以下の4つの提言を行い続け、実現につなげることができました。
 ①企業誘致の責任を明確にする部署(係)の設置
 ②経済動向(域内循環)を調査分析する部署(係)設置
 ③ふるさと寄附やクラウドファンディング、企業スポンサー制度などによる税外収入増加策
 ④市民向けの財政状況報告書作成や域内循環、域内消費の啓発

「ふるさと基金」13億

まず、政策を打つためには財源が必要です。
 私は平成25年の議会において、それまで本市のふるさと寄附制度に導入されていなかった「インターネットによる電子決済」「特産品による返礼品を導入」、これら2つを

提案。また、宗像市のふるさと寄附に出品したいので宗像市に事務所を持ち、宗像産の材料を仕入れた加工品を作りたいという経営者の声もあります。それまで宗像市のふるさと寄附制度に導入されていなかった、まちづくり交付金、市民スポーツ活動、小中一貫コミュニティスクール、地域子ども・子育て支援、観光振興、中小企業者等支援、農林水産支援、文化芸術、文化財調査、大学連携まちづくり、スポーツ振興、定住化推進、スポーツ観光、オンデマンドバス、宗像ユリックス管理運営、畜犬事務、環境美化、国際交流など様々な分野、様々な施策に活用。
 その他にも石川県輪島市のふるさと納税代理寄附など被災地支援にも貢献。

	平成26年	令和4年
寄附件数	254件	63,951件
寄附額	3,325万円	15億6,931万円
返礼品数	1	811
事業所数	0	86
経済効果	0	4億4,137円

2012年から、12年間やってきたこと。

- 「実現したこと」**
- ・SNSを活用した災害情報の発信
 - ・市民活動補助金に自治会再生事業枠の設置
- 「前進していること」**
- ・栄町・くりえいと・田久地区の浸水対策
 - ・宗像地区消防本所の早期建て替えのための準備予算化
 - ・釣川の護岸整備、浚渫
 - ・救急車両の導入支援
- 「実現を目指していること」**
- ・公共施設内のAEDを施設休館時でも持ち出しやすくする工夫
 - ・介護住宅補助事業と耐震改修補助のセット化
 - ・消防団員や家族に対する応援機会の創出
 - ・消防団員の事務負担軽減策及び消防団中型免許取得助成
 - ・災害時要支援者名簿の登録推進策
 - ・市民活動登録団体へ災害ボランティア枠の設置
 - ・災害ボランティアの事前登録制度
 - ・地元産品を活用した防災食の開発推進
 - ・公民館の耐震化補助制度化及び避難所機能向上への補助制度化